地域 家庭 学校

ＣＳかわら版

みんなで子どもを育てる
コミュニティ・スクール

令和８年１１月発行
小樽市立朝里中学校
学校運営協議会事務局

地域とともに学ぶ防災訓練

～地域を支える中学生を目指して～

10 月 25 日（日）、朝里中学校学校運営協議会（CS）主催の「朝里地区合同防災訓練」が行われ、地域住民や小・中学生など約 150 名が参加しました。

避難所運営体験「Do はぐ」では、地域住民と中学生が同じグループになり、避難者の受け入れや、さまざまな困難への対応について話し合いました。公平性を保ちながら、誰を優先して支援するかなど、難しい課題にも仲間と協力して取り組みました。生徒からは「早い者勝ちではなく、最も助けを必要とする人のことを考えることが大切だと思った」との感想が聞かれました。

また、自衛隊による炊き出しでは、午前５時から準備が始まり、参加者にカレーが振る舞われました。さらに、バレーボール部の生徒たちが会場の設営や片付けを手伝い、訓練を支える姿も見られました。

今回の訓練は、災害時に自分たちに何ができるかを考える貴重な機会となりました。今後も地域とのつながりを大切にし、「地域に支えられる学校から、地域を支える学校へ」を目指していきます。





小樽市立朝里中学校　学校運営協議会主催

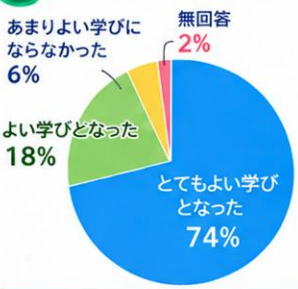
防災訓練 振り返りアンケート 結果と分析

～ みんなの声を、これからの防災に ～

参加者105名、うち小中学生26名

10月25日（日）に実施した防災訓練の振り返りアンケートに、ご協力いただきありがとうございました。このポスターでは、アンケートの集計結果と、今後の防災訓練に向けた提案をまとめました。

1 防災講話「避難所について」の内容

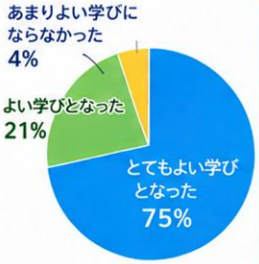


参加者の声（抜粋）

- 避難所の運営について、具体的に知ることができた。
- 避難所のイメージが変わった。
- 自分たちの地域でも活かせると感じた。
- もっと詳しく知りたい。



2 避難所運営体験「DoHUG」の内容

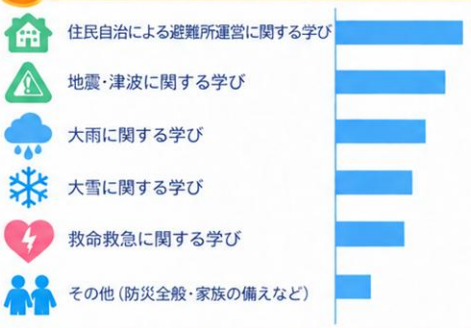


参加者の声（抜粋）

- ゲーム感覚で楽しく学べた。
- 実際の避難所運営をイメージできた。
- 他の参加者と意見交換できた。
- 事前の準備やルール作りの大切さがわかった。



3 今後必要だと思う学び（複数選択可）



4 自由記述のまとめ

良かった点・成果

- 様々な世代の人と交流できた。・ゲーム形式で楽しく学べた。
- 避難所運営の具体的なイメージができた。
- 地域のつながりや助け合いの大切さを再確認できた。

改善してほしい点

- 時間が短く、もっと多くの内容を学びたかった。
- 説明がわかりにくい部分があった。
- もう少しグループで話す時間がほしかった。

今後求める学び

- 地域の防災体制や避難所運営について詳しく知りたい。
- 地震・津波・大雨・大雪などの災害について学びたい。
- 救命救急や応急手当の知識を身につけたい。

5 全質問から見えることと、次年度に向けた提案

全体の傾向

- 参加者は「大人（学生以外）」が7割以上を占め、地域の方の参加が多く見られました。
- 「防災講話」「DoHUG」ともに、今後以上が「よい学び」と評価しています。
- 今後必要な学びとして、「避難所運営」「地震・津波」「大雨・大雪」が上位を占め、地域の防災力向上への関心が高いことがわかりました。

参加者の声から見えたポイント

- 避難所運営や実践的な体験が、学びにつながっている。
- 実世代での交流や意見交換が、地域のつながりを強めている。
- 災害の種類に応じた具体的な知識や、家族・個人の備えについて学びたいという意見が多い。

次年度に向けた提案

1. 防災講話やDoHUGの内容を、より実践的でわかりやすくする。
2. 避難所運営の具体例や地域の防災体制についての学習を充実させる。
3. 地震・津波・大雨・大雪などの災害ごとの学習プログラムを取り入れる。
4. 参加者の声を反映した、さらに多世代が参加できる工夫をする。
5. 多世代が交流できるグループワークの時間を確保する。

小樽市立朝里中学校　学校運営協議会

～ 地域のつながりが、みんなの命を守る。～

第８回ＣＳ会議報告

～みんなでつくった防災訓練の振り返り＆来年度へ！～

10 月 25 日に実施された防災訓練について、参加者アンケートの成果や声を交えながら、来年度に向けたワクワクするアイデアを協議しました。

笑顔と学びがあふれた防災訓練の成果

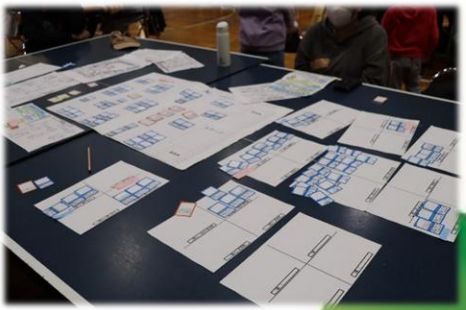
- **多世代のあたたかな交流と高い満足度**：小学生・中学生・地域のみなさんが一堂に会し、避難所運営ゲーム「Do-HUG（ドゥハグ）」などを通して避難所の工夫を語り合いました。参加者の約 96%が「良い学びになった」と大満足の回答でした！
- **頼もしかった中学生の活躍**：グループワークでは中学生が積極的に意見をまとめたり進行を務めたりと、大人も驚くほど頼もしい姿を見せてくれました。世代を超えて楽しく学びを深める貴重な時間となりました。

来年度はもっと参加したくなる！　検討中のアイデア

- **見やすさ・伝わりやすさの工夫**：会場全体で話がしっかり伝わるよう、プロジェクターの調整やタブレット画面の共有など、誰もが快適に参加できる工夫を検討します。
- **体験型訓練（Do はぐ）の継続**：ゲーム感覚で防災対応力が身につく体験型訓練を継続し、地域みんなで楽しみながら防災スキルを高めていきます。
- **地域・消防団との連携＆子どもたちの出番拡大**：中学生がさらに主体的に活躍できる場を広げるとともに、消防団など地域の力との連携を強めていきます。
- **みんなでつくる炊き出し・調理訓練**：地域や生徒たちの手で協力して行う「おにぎり作り」や「炊き出し」など、ワイワイ助け合える楽しい訓練の形も模索していきます。








中学生の頼もしい姿に出会えたり、地域のみんなで助け合える体験型の訓練です。
来年度はぜひ、あなたも地域の輪に加わってみませんか？